

在宅介護などの負担軽減を図る 上郷町に2つの施設が開所

遠野市社会福祉協議会（白井悦男会長）は短期入所介護施設「ショートステイ上郷」を、（株）ワカバ（千葉裕光代表取締役）は認知症グループホーム「ひだまり上郷」を上郷小学校付近に新設し、その開所式は4月6日と8日、同所でそれぞれ行われました。出席した関係者や住民らは、地域の福祉向上に期待を寄せました。「ショートステイ上郷」は、在宅介護の高齢者などを、最大で20人受け入れ、介護者の負担を軽減します。「ひだまり上郷」は、認知症などの高齢者が9人入所。共同生活を通じて、入所者の自立を支援します。白井会長は「利用者が快適に過ごせる環境作りに努めたい」と、千葉代表取締役は「地域とのつながりを大切に施設運営を心掛けた」と抱負を語りました。



↑開所式で抱負を述べる白井会長
↓ひだまり上郷

地域に飛び込み交流深めたい 12人目の緑の協力隊員着任

NPO法人地球緑化センターが派遣する「緑のふるさと協力隊」として着任した本郷なつ美さん（22）は4月11日、とびあ庁舎を訪れ、本田市長に着任のあいさつをしました。本郷さんは滋賀県出身で、この春、龍谷大学国際文化学部を卒業。学生時代にまちづくりボランティアに参加した経験から、もともと地域を元気にしたいと同協力隊に応募しました。同協力隊の受け入れは12人目で、派遣期間は来年3月までの1年間。宮守総合支所を拠点に農作業や地域活動に参加しながら、遠野の文化や伝統を学びます。



本田市長に地域活動への抱負を語る本郷さん（中央）

各種がん検診にポイント付与 市とすずらん組合が協定

市と、市内小売店135店が加盟する遠野すずらん振興協同組合（須藤義幸理事長）が連携する「市検診等受診ポイント事業協定」の調印式は4月21日、とびあ庁舎で開かれました。本田市長と須藤理事長は、市民の健康増進と商業振興に向けた新たな取り組みへ心を一つにしました。同事業は、市が行う各種がん検診などの自己負担分、同組合が発行する「スキップカード」のポイントを付与するもの（P15参照）。市の各種がん検診の受診率は平均28.9%と低く、検診をより身近に感じてもらうことで受診率を引き上げたい考えです。本田市長は「官民が一体となって同事業を盛り上げ、市民の健康増進と商店街の活性化につなげたい」と決意し、須藤理事長は「市民が健康に



協定書を手に協力を誓う本田市長（左）と須藤理事長

なれば、買い物も弾む。積極的に検診をPRしていきたい」と協力を誓いました。

ドライビングスクール10周年 地域活性化目指し決意新た

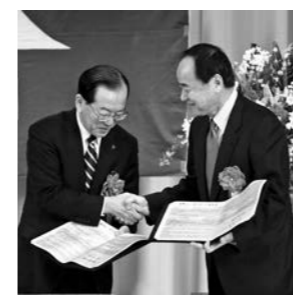
遠野ドライビングスクール（田村満社長、青笹町）の創立10周年記念式典と祝賀会は4月14日、あえりあ遠野で開かれました。同校の職員や商工観光関係者ら100人は、グリーンツーリズムなどを通じて、観光振興にも貢献する同校の歩みを振り返りました。式典では、功労者に感謝状を贈呈。祝賀会では、陸前高田市の太鼓グループなどによ

連携の力でまちづくりを展開 みらい創りカレッジが開校

富士ゼロックス（株）（東京都、山本忠人社長）と本市が連携して取り組む「遠野みらい創りカレッジ」の開校式は4月8日、旧土淵中学校で開催されました。出席した関係者や地域住民ら約250人は、同校舎を活用したまちづくりの拠点の完成を祝いました。同カレッジは▽企業研修「みらい創りキャンプ」▽民俗学の研究・発信▽6次産業化の支援▽グリーンツーリズムなどを展開。企業・大学・地域と連携し、地域の課題解決や活性化に取り組めます。式では、同社の栗原博常務取締役と本田市長が協定書に調印。協定締結を記念し、土淵小学校の児童が昔話を披露すると、会場から大きな拍手が送られました。式典後は、京都大学の池上博名誉教授による講演や、同社の研究員による公開授業を実施。このほか、飯豊神楽の奉納や餅まきも行われ、多彩なイベントで同カレッジの船出を祝いました。



公開授業に参加する児童ら。対話を通じて理想のまちについて探りました



硬い握手を交わす栗原常務取締役と本田市長

栗原常務取締役は「さまざまな人が集い、対話を深めることで課題は解決できる。遠野の地で社会貢献の新たなモデルを構築する」と決意。本田市長は「産学官と地域が連携し、将来を見据えたまちづくりを考える場として発展させたい」と抱負を語りました。

遠野物語研究所の歴史に幕

NPO法人遠野物語研究所（高柳俊郎所長、会員20人）は、会員の高齢化などの理由により、本年3月末に解散し、19年間の歴史に幕を閉じました。研究所は、1995年に設立され、2002年にNPO法人化。一般市民らによる「生活者の学び」を理念に、『遠野物語』などを中心に民俗学の研究に取り組んできました。これまで

著名な学者を講師に招いた遠野物語ゼミナールや、市民を対象にした遠野物語教室、語り部教室、遠野学会なども開催。このほか、研究成果を書籍にまとめるなど、郷土文化の研究や保存、次代への継承活動に尽力してきました。会員の平均年齢は70歳以上で、運営が困難になったことから解散を決定。研究資料などは遠野文化研究センター（赤坂憲雄所長）に提供し、書籍は図書館や各地区センター、市内の中学・高校などに寄贈します。

←出版した書籍は100冊以上。貴重な文化的資料として引き継がれます



市民が日頃の研究成果を発表する遠野学会は18回を数えました



前所長 高柳 俊郎 さん

『遠野物語』の奥深さや郷土の文化のすばらしさを知ることができた19年でした。次代を担う皆さんには、その魅力をまちづくりに生かしてもらいたいです。

